

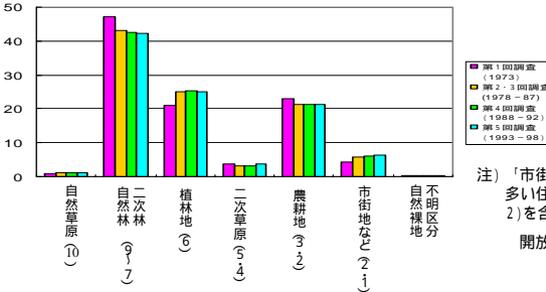
指標：植生自然度の区分内容別の推移、森林の連続性

植生自然度は、自然林(植生自然度9)や二次林(同8・7)の減少が大きく、一方で植林地(同6)、市街地など(同2・1)は増加している。ブロック別の構成では、北海道、沖縄では8以上が多く、近畿、中国、四国では二次林(同7)、植林地(同6)の地域が多い。

森林の連続性は、減少しており、森林の分断化・孤立化が進行している。特に里地自然地域においてその傾向が見られる。

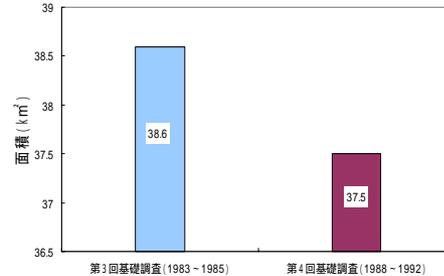
比率(%)

植生自然度の区分内容別の推移



注)「市街地など」には「緑の多い住宅地」(植生自然度2)を含む。
開放水域を含まない。

森林の連続性

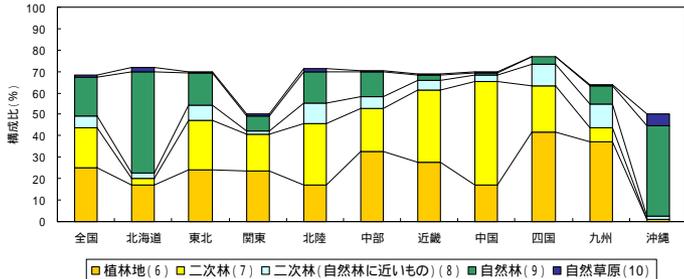


森林連続性指標は、森林の連続度合いやかたまり度合いが高いほど、生物の生息地としての空間が広がり、健全な生態系の保全に有効と思われることから、自然環境の質的状況を表す指標の一つとして考えられたもので、次の式から算出される。

森林連続性 = 森林の面積合計 / 森林塊の数

したがって、同じ森林の面積合計でも森林塊の数が少ないほど、同じ森林塊の数でも森林面積合計が多いほど、森林連続性の数値が高くなり、良好な自然環境が保全されている可能性が高いことが考えられる。

ブロック別の植生自然度の高い区分内容(10~6)の構成比



注)凡例の(カッコ内)の数は、植生自然度を示す。

(出典)環境省「自然環境保全基礎調査」をもとに国土交通省国土計画局作成

(出典)「環境基本計画」をもとに国土交通省国土計画局作成

地域分類により区分された地域の特性と平均パッチ面積

面積構成	平均人口密度 (人/km ²)	平均森林率 (%)	平均農地率 (%)	平均パッチ面積 (km ²)		
				第3回	第4回	
山地自然地域	30%	66	86	6	70.9	71.0
里地自然地域	44%	208	69	16	18.9	18.3
平地自然地域	26%	769	40	36	2.1	2.1
全国		323	65	18	38.6	37.5

(出典)環境省「総合的環境指標検討会」資料をもとに国土交通省国土計画局作成